

# 日本脳炎 13歳以上で保護者が同伴しない場合

## ◆ 日本脳炎

### (1) 病気の説明

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。ヒトから直接ではなくブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介され感染します。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。ヒトからヒトへの感染はありません。

流行は西日本地域が中心ですが、ウイルスは北海道など一部を除く日本全体に分布しています。飼育されているブタにおける日本脳炎の流行は毎年6月から10月まで続きますが、この間に、地域によっては、約80%以上のブタが感染しています。以前は小児、学童に発生していましたが、予防接種の普及などで減少し、最近では予防接種を受けていない高齢者を中心に患者が発生しています。

感染者のうち100～1,000人に1人が脳炎を発症します。脳炎のほか髄膜炎や夏かぜ様の症状で終わる人もいます。脳炎にかかった時の死亡率は約20～40%ですが、神経の後遺症を残す人が多くいます。

### (2) 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン（不活化ワクチン）

乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンは、ベロ細胞という細胞でウイルスを増殖させ、ホルマリンなどのウイルスを殺し（不活化）、精製したものです。

ワクチンの接種に際して疑問があるとき又は最新の情報については、保健センターにお問い合わせしていただくとともに、厚生労働省の「日本脳炎ワクチン接種に係るQ&A」をご覧ください。

[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou20/nouen\\_qa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou20/nouen_qa.html)

日本脳炎の予防接種に関する記述内容に変更がある場合には、予防接種リサーチセンターのホームページでお知らせします。

<http://www.yoboseshu-rc.com/>

### ● ADEM（急性散在性脳脊髄炎）

一般にウイルス感染後、あるいはワクチン接種後に、極めてまれにですが、ワクチン接種後に発生すると考えられる脳神経の病気です。ワクチン接種後の場合は、通常数日から数週間程度で、発熱、頭痛、けいれん、運動障害などの症状がでます。ステロイド剤などの治療により、多くの患者さんは正常に回復しますが、運動障害や脳波異常などの神経系の後遺症が10%程度あるといわれています。

## ○ 保護者の方へ：下記事項をよくお読みください。

上記の内容をよく読み、十分理解し、納得された上でお子様に接種することを決めてください。接種させることを決定した場合は、下記の保護者自署欄に署名してください。（**署名がなければ予防接種は受けられません**）接種を希望しない場合には、自署欄に記載する必要はありません。

説明を読み、予防接種の効果や目的、重篤な副反応発症の可能性及び予防接種救済制度などについて理解したうえで、子どもに接種させることに同意します。

なお、説明書は、保護者の方に予防接種に対する理解を深める目的のために作成されたことを理解の上、予診票が高砂市に提出されることに同意します。

保護者自署

住所 高砂市

緊急の連絡先